

# 経営比較分析表（令和4年度決算）

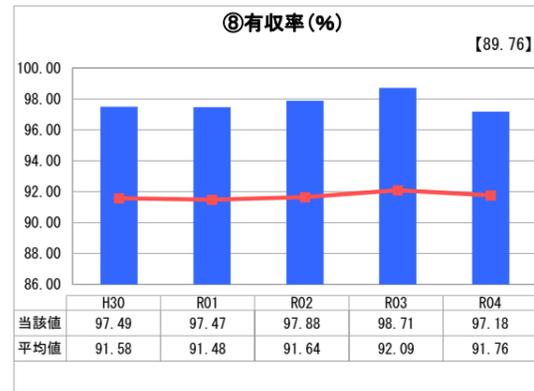
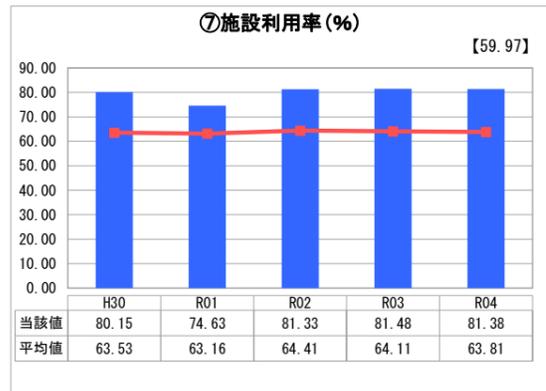
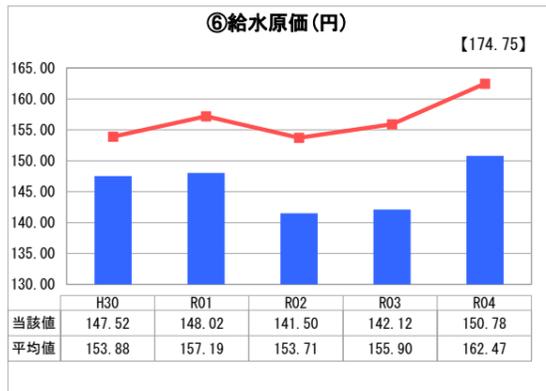
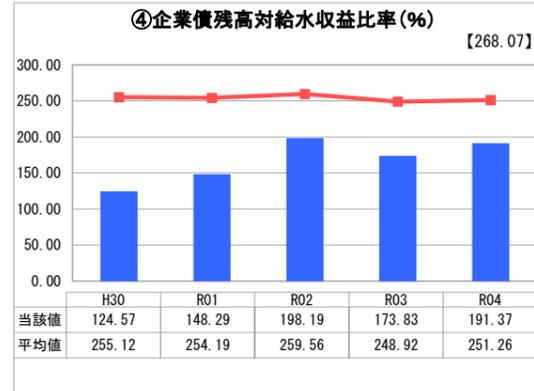
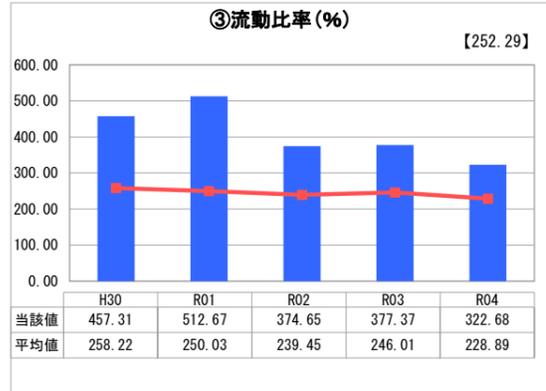
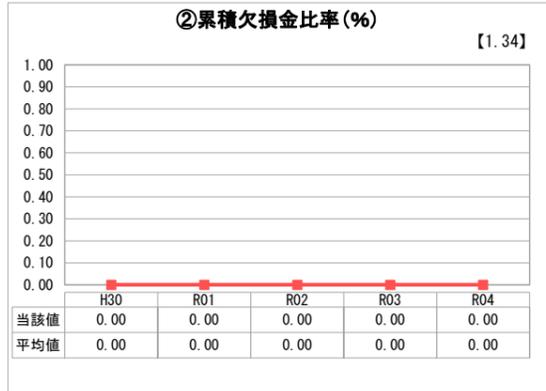
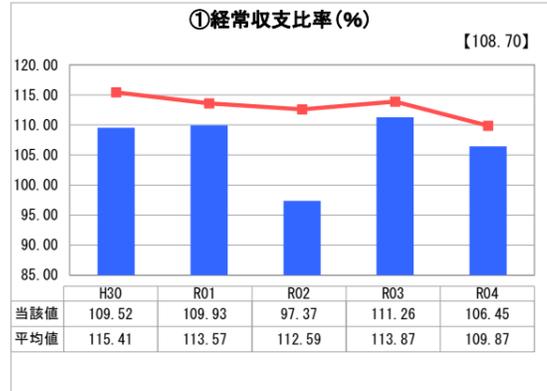
埼玉県 所沢市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A1	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	81.17	100.00	2,134	

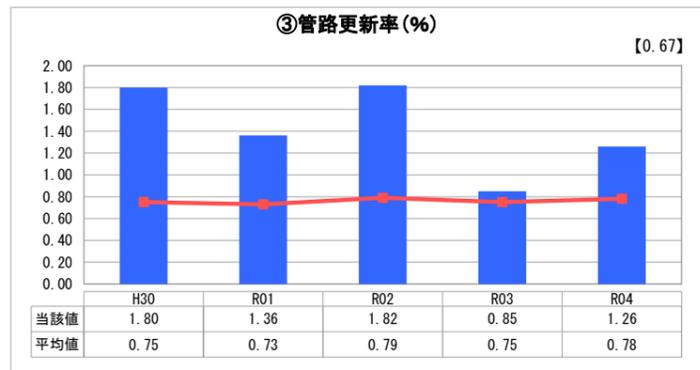
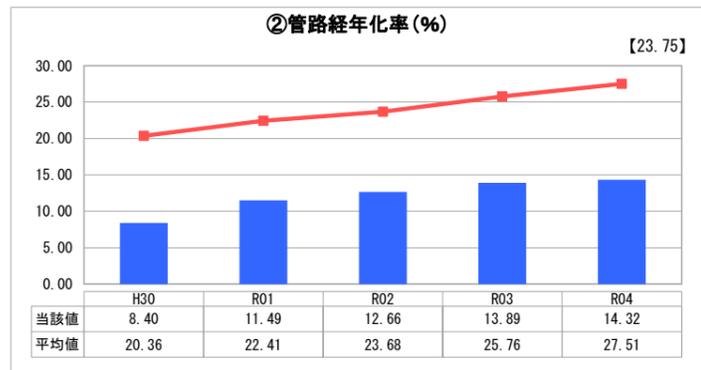
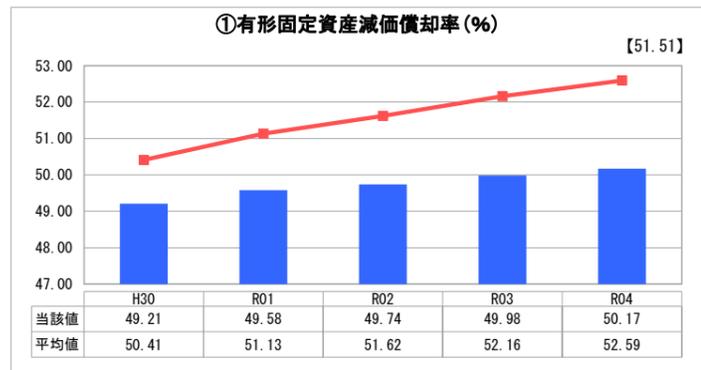
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
344,070	72.11	4,771.46
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
343,851	67.64	5,083.55

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和4年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率  
望ましいとされる100%を超えておりますが、対前年比で値が減少しています。これは、新型コロナウイルス感染症に対する規制緩和に伴い、外出の機会が増えたことで配水量が減少し、給水収益が減少したことや、物価や人件費の高騰による支出の増加等があったことが影響していると考えられます。

② 累積欠損金比率  
累積欠損金は発生していませんが、給水収益が長期的に減少傾向にあり注意が必要です。

③ 流動比率  
支出の増加等があったことから、指標が悪化したものですが、望ましいとされる200%を超えており、支払能力はあるといえます。

④ 企業債残高対給水収益比率  
給水収益が減少したことで指標が悪化したものですが、類似団体平均と比べ健全な状況です。

⑤ 料金回収率・⑥ 給水原価  
配水量が減少したことにより、数値が悪化したものです。今後は更に費用の増大が予想されるため、料金回収率の悪化が見込まれます。

⑦ 施設利用率  
類似団体と比較し良好な数値ですが、一日平均配水量は減少傾向にあるため、施設のダウンサイジングなど水道施設の規模適正化が引き続き必要です。

⑧ 有収率  
類似団体と比較し良好な数値を保っています。適正な維持管理や老朽管の更新等を計画的に行っていくことが、有収率の高さに繋がっています。

### 2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率  
使用年数が法定耐用年数の5割程度を経過している状況です。事業費の平準化を図りつつ、計画的に更新していく必要があります。

② 管路経年化率  
計画的な管路の更新を行っているため、類似団体と比べ、老朽化の度合いは低い状況といえます。しかし、値は増加傾向にあるため、着実な更新をしていく必要があります。

③ 管路更新率  
類似団体と比較すると、更新投資は多い状況にあり、当市の有収率の高さに繋がっていると考えられます。

## 全体総括

令和4年度は、経常収支比率及び流動比率から、事業経営は概ね健全であり、支払能力も十分にあるといえます。

しかしながら、材料費や光熱費等の物価高騰により、工事費や維持管理費等の経費が増加し、料金収入で賄うべき必要経費を賄うことができず、全ての指標において、数値が悪化している状況です。

今後この傾向は続くものと見込んでおり、適正な水道料金のあり方を検討する必要があると考えます。

施設については、老朽化の進行が続いていることから、財政状況を踏まえながら引き続き計画的に更新を進めていくとともに、水需要の減少に応じたダウンサイジングなど、施設規模の適正化に取り組み、将来に渡り安定供給に努めていく必要があります。